

タイ国民の父・プミポン国王

工藤ウィランヤー（タイ王国）

みなさん、こんにちは。私は、工藤ウィランヤーと申します。タイのバンコクから来ました。今日は私のお父さんのお話しをします。私のお父さんは二人います。一人は本当のお父さん、もう一人は、10月にお亡くなりになったタイのプミポン国王です。

タイ人はみんなプミポン国王のことが大好きでとても尊敬しています。自分のお父さんだと思っています。その訳は、昔からプミポン国王は、タイ人みんなのために一生懸命仕事をしてくださったからです。

プミポン国王は、机に座っているだけの王様ではありません。自分でいろいろな所へ行って、少しでもタイを良くしようとしてくださいました。田舎の山の中でも、そこに人が住んでいれば、山道を自分で歩いて行ってくださいました。テロや紛争の近くで命の危険がある所で、警備の人が止めてもその人たちのために行ってくださいました。そして、その人たちが水に困らないように、ダムを造ったり、お米や野菜がちゃんと取れるように、飛行機を使って人工的に雨を降らしたりしててくださいました。

他にも、ダムを造るときは、カヌー遊びやウォータースライダーができるようにしたり、景色のきれいな所を作って、旅行する人を増やして、ホテルをたくさん作るなど、産業の発達にも尽くしてくださいました。プミポン国王は国民のために毎日休まず働き、国民を助けるために4000以上の計画を考えてくださいました。

だから、プミポン国王は、本に出てくるような王様や神様ではなく、タイ人の心の中にいつもいるお父さんなのです。また、タイ人はみんな家の中にプミポン国王の写真を飾っています。それは、プミポン国王が王様なのに、普通のタイ人のような暮らしをしていて、いつもタイ人みんなのために正しいことを教えてくださって、タイ人みんなのことを子供のようが一番に考えてくださったからです。タイ人にとっては、プミポン国王は心の支えであり、国王のことを考えることで、どんな困難にもがんばっていこうと前向きな気持ちになることができます。

ところで、みなさんはタイの民族舞踊を見たことがありますか。私は大学で、その民族舞踊を勉強していました。私が通っていたその大学は、プミポン国王が造ってくださった大学です。そして私は大学生のとき、幸運にも国王の宮殿へ行って、プミポン国王の前で踊る機会をいただきました。そんなことがあってから、私はプミポン国王がますます身近なお方のように感じました。その時の感動は、今もはっきりと覚えています。私にとってはとても大切なプミポン国王の思い出です。

今、私はタイから遠く離れた日本に住んでいます。そして、これからもずっと日本に住むつもりです。でも、私はプミポン国王のことを忘れることはありません。なぜなら国王は私のお父さんですから……。

これで私のスピーチを終わります。ご清聴ありがとうございました。